

4月から非正規労働者の無期転換が本格的に始まるのを前に、勤務先の都合で転換できず雇い止めされる労働者の間から雇用の継続を求める声が上がっている。原則転換を認めない北大で、北大教職員組合（北大職組）が調査したところ非正規職員は8割超が転換を望んだ。札幌市の児童会館（ミニを含む）の指定管理者・さっぽろ青少年女性活動協会も無期転換制度を導入したが、年齢などの制限があり、対象から外れた非正規職員たち約80人が3月末に雇用を切られる。

（編集委員 中村康利）

非正規の雇用継続ルール 来月スタート

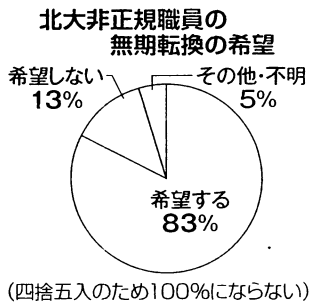
「無期転換」適用外の職場も

「無期転換」とは、改正労働契約法によって通算5年を超えて同じ企業で働く人が無期雇用への転換を申し込めば、企業は拒めない「無期転換ルール」のこと。4月から本格的に適用が始まる。北大は財政難などを理由に5年を超える契約更新を原則認めていないため、無期転換できない。

北大の研究機関で働く非正規職員（60代女性）は3月末で5年間の雇用が終わる。法律上、5年を超えないと無期転換できない。「シンポジウムの準備、報告書の編集などの仕事をした。私にとっても興味深いテーマを研究する教員もおり、4月以降も勤務したかった」と漏らす。この職員は夫の収入があるため経済的には困らないという。それでも「北大以外も含め非正規で30年働いている。『いつ雇用の切られるか』という不安は常にある」と打ち明けた。

北大によると非正規職員は約1700人おり、このうち約150人が3月末で契約を満了す

北大職組が非正規職員を対象に勤務実態をアンケート調査したところ約360人が回答（2月23日時点）した。非正規で働く理由を尋ねると、「常勤の仕事がないから」が61%と最も多く、「勤務時間が短いから」（27



る（病院除く）。北大職組が非正規職員を対象に勤務実態をアンケート調査したところ約360人が回答（2月23日時点）した。非正規で働く理由を尋ねると、「常勤の仕事がないから」が61%と最も多く、「勤務時間が短いから」（27

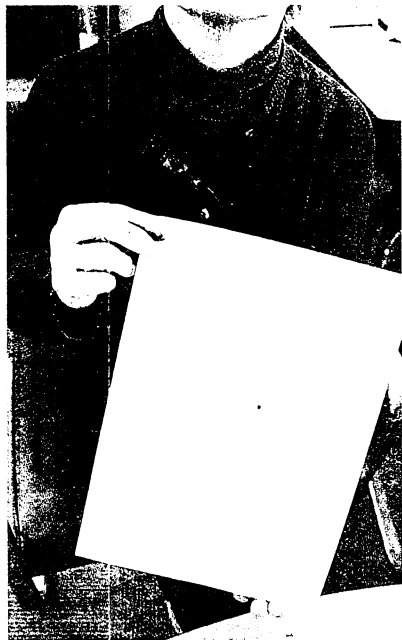
年齢制限などで雇い止め

「配置転換がないから」（13%）などと続いた（複数回答）。無期転換を「希望する」が83%と圧倒的で「希望しない」は13%。回答者から「5年間で使い捨てられる感覚が常にどこかにあるので信頼関係を築きにくく、モチベーションが上がらない」などの意見が寄せられた。

北大職組の駒川智子書記次長（教育学研究院准教授）は「常勤の仕事が見つからなかったり、生活に見合う勤務を選んだりして北大で非正規で働く職員の大半が、安定した就労である無期雇用を望んでいる。転換を認めないことで職員の労働意欲をそぐのは大学にも不利益だと指摘する。

◇ 無期転換制度を導入後、制度から漏れた労働者が不満を募らせるケースもある。さっぽろ青少年女性活動協会は昨年4月、この制度を取り入れた。ただし転換できる職員の年齢上限を設けたほか臨時職員などを対象から外し、今年3月末、約80人が雇い止めとなる。

3月末で更新上限（3年）になり契約満了を通告された女性職員（68）は「最初の契約では70歳まで働けると言われた。実際、70歳を過ぎて3年以上勤める人もいた。だが、私は年齢制限で転換できない。勤務の途中で制度が変わって働けなくなるのは納得できない」。計6年半働いた別の女性職員（69）も3月末で雇用が切れる。「子どもが好きなので、あと1年続けたかった」と残念がる。



契約満了の通知文のコピーを手に、雇用継続を訴える非正規職員（写真を一部加工しています）

全日本建設交通一般労働組合札幌学童保育支部と札幌ローカルユニオン結は「協会が無期転換を導入したことは評価するが、年齢上限などで不利益を被る労働者が出ないよう、希望する非正規全員を無期雇用すべきだ」と主張する。協会は「来年度以降、臨時職員の処遇などを検討したい」と話している。